



ケムエリ・ナイガマ氏 -駐日フィジー共和国大使

ケムエリ・ナイガマ氏 (Kemueli NAIQAMA) は、駐日フィジー共和国次期大使任命されました。この任命は、30 年以上にわたる公共サービス、国の発展、国際協力における卓越したキャリアを反映しています。

現職に就く以前、ナイガマ氏はフィジー統計局 (Fiji Bureau of Statistics) の最高経営責任者 (Chief Executive) を務め、フィジーの国家統計システムの強化および政策立案や開発計画に資する高品質でエビデンスに基づくデータの提供を確保するため、戦略的リーダーシップを発揮しました。

在任中は、2017 年人口・住宅センサス、2019～2020 年家計所得支出調査 (HIES) 貧困報告書、2021 年フィジー複合指標クラスター調査 (MICS)、2025～2026 年 HIES データ収集活動、2025 年国家人口政策報告書の作成など、主要な国家的取り組みを統括しました。また、国際的な統計基準および手法の導入を推進するとともに、数多くの地域的・国際的フォーラムにおいてフィジーを代表しました。

統計分野でのリーダーシップに加え、ナイガマ氏は首相府で上級顧問として社会経済・環境政策に関する助言を行い、国家開発優先事項への貢献も果たしています。彼の経験は国際舞台にも及び、国連人口基金 (UNFPA)、国連開発計画 (UNDP)、およびアジア開発銀行 (ADB) 執行理事会との協働を通じて、高レベルの政策対話、人口動態分析、災害復興計画、地域開発イニシアチブを支援してきました。フィジー国内では、Ratu Sukuna Memorial School や Ratu Kadavulevu School で中等学校教員として勤務した経験もあります。

ナイガマ氏はそのキャリアを通じて、サイクロン・ウィンストンなどの大規模自然災害におけるドナー調整や、鉄砲水に対する国家レベルの対応など、重要な国家プロジェクトおよび特別任務を主導してきました。

また、ESCAP (国連アジア太平洋経済社会委員会) 統計委員会の副議長や、SDGs 指標に関する国連機関間専門家グループ (UN Inter-Agency Expert Group on SDG Indicators) のメンバーをはじめとする主要な委員会に参画し、地域および国際的な統計ガバナンスにも積極的に貢献してきました。

ナイガマ氏は、南太平洋大学にて経営学修士 (MBA) を取得し、フィジー大学にて国際関係学の大学院修了証 (Postgraduate Certificate) を取得しています。また、南太平洋大学にて経済学の学士号 (BA) および技術学の学士号を取得しています。

彼の専門分野は経済政策、戦略的計画、統計、持続可能な開発、災害リスク管理、国際協力に渡ります。

ナイガマ氏の関心分野には、バレーボールやラグビーがあり、選手としてだけでなくスポーツマネジメントの分野にも携わっています。

ナイガマ夫人はセマイマ・セセ・ラギラギ氏で、女性・子ども・社会保護省にて女性担当官として勤務しており、お子様が二人います。